

湿地性カラー県育成品種における収穫後の苞の萎れ・褐変を遅延する方法

湿地性カラー「熊本 FC01」および「熊本 FC02」の収穫後の苞の萎れ・褐変の発生は、苞の部分に対する B A (ベンジルアデニン) 100ppm 液または市販の切り花生産者用前処理剤ミラクルミスト 500 倍希釈液への瞬間浸漬処理で抑制できる。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 工藤陽史)

研究のねらい

切り花は日持ちの良さが求められる。湿地性カラーの白系統品種において鑑賞期間を短くする要因の一つに苞の萎れ・褐変がある。「熊本 FC01」は低温期が切り前 3~4、高温期が 2~4、「熊本 FC02」は切り前 2~6 での活用が可能である (成果情報 No635)。湿地性カラーの販売戦略に資することを目的に、品種特性を活かせる切り前での日持ち向上を図る品質保持技術を確立する。

研究の成果

1. B A 100ppm 液に苞の部分を浸漬する処理で、「熊本 FC01」の切り前 3、「熊本 FC02」の切り前 3 および切り前 5 で苞の萎れ発生を 4 月中旬の室温下で生け花後 10 日間抑えられる (表 1)。
2. 市販されている切り花生産者用前処理剤ミラクルミスト浸漬処理で、切り前 4~5 の「熊本 FC01」が 1.7 日、「熊本 FC02」が 5.2 日、「ウェディングマーチ」が 1.4 日、苞の萎れ発生が無処理に比べて遅い (表 2、図 1~3)。

普及上の留意点

1. ミラクルミスト処理では、収穫後の切り花の苞部を 500 倍希釈液で瞬間浸漬する。
2. 日持ち調査は、収穫後に切り花長 70 cm で調整した切り花を水道水 4 L 入れた花桶特大 1 号に生けて生け水は毎日交換した。なお、B A 処理試験は室温下、ミラクルミスト処理試験は 20℃設定、24 時間照明の恒温室で行った。
3. 切り花は、熊本県農業研究センター内の水田圃場で栽培したものを供試した。

表 1 苞への B A 浸漬処理が収穫後の苞の萎れおよび褐変に及ぼす影響

品種	収穫時切り前	B A 処理濃度	苞の萎れ観察日	苞の褐変観察日
「熊本FC01」	3	0ppm	6.0日	9.7日
		100ppm	11.1日	17.1日
		200ppm	12.3日	18.1日
「熊本FC02」	3	0ppm	8.7日	10.5日
		100ppm	11.2日	17.3日
		200ppm	13.3日	19.4日
	5	0ppm	5.7日	8.5日
		100ppm	10.8日	16.4日
		200ppm	11.3日	15.8日

※苞の萎れ観察日：生け花開始から苞の萎れが観察されるまでの日数
 苞の褐変観察日：生け花開始から苞の褐変が観察されるまでの日数
 収穫日：平成24年4月17日
 「熊本FC01」 n=7、「熊本FC02」 n=11

表 2 収穫後の苞の萎れおよび褐変に及ぼすミラクルミスト処理の影響

品種	処理の有無	苞の萎れ観察日	苞の褐変観察日
「ウエディングマーチ」	なし	5.0日	6.4日
	あり	6.4日	9.1日
「熊本FC01」	なし	5.0日	6.0日
	あり	6.7日	9.6日
「熊本FC02」	なし	6.6日	9.4日
	あり	11.8日	17.0日

※苞の萎れ観察日：生け花開始から苞の萎れが観察されるまでの日数
 苞の褐変観察日：生け花開始から苞の褐変が観察されるまでの日数
 収穫日：「ウエディングマーチ」および「熊本FC01」平成25年2月18日
 「熊本FC02」平成25年2月12日
 収穫時の切り前 4～5
 ミラクルミスト処理：500倍希釈液への苞の浸漬処理
 「ウエディングマーチ」および「熊本FC01」 n=10、「熊本FC02」 n=5

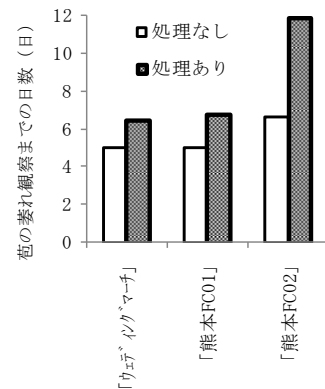


図 1 ミラクルミスト処理が苞の萎れに及ぼす影響

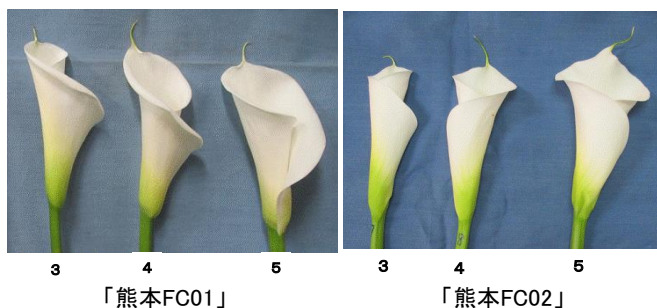


図 2 切り前



図 3 ミラクルミスト処理の影響 (品種「熊本FC01」、収穫11日後)